

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100077		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい静岡	ユニット名	1F
所在地	静岡県沼津市獅子浜111-1		
自己評価作成日	平成28年2月25日	評価結果市町村受理日	平成28年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2291100077-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2291100077-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成28年3月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に溶け込んだホームを目指しています。近所の方との交流や保育園・小中一貫校の生徒とのふれあいの場を大切にしています。2年に1度ある地域の祭典ではカラオケ大会に参加させていただいたり、職員が御神輿の担ぎ手に参加し、ホームの前まで来てくれています。港町と言うこともあり、近海物の鯛や鱈などの地魚など食事で提供しています。ケアプランに沿ったケアが出来るように、個々のご利用者様の希望をフロアスタッフが情報収集し共有して、必ず実行できるように業務の流れを工夫をし、その方にあったケアを積極的に行っています。毎月の行事は季節感を感じていただける内容を考えて行い、お誕生日についてはご家族様とご相談をさせて頂きながら行事を行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「みんな、笑顔でいつもの暮らし」を理念に、家族や地域との交流を積極的に働きかけている。祭りの時にはテントを張って職員手作りのかまどでバーベキューをしたり、小中一貫校の生徒が太鼓演奏をする等、ペランダから続く南側の敷地を多目的に使用している。畑や花壇は手入れが行き届いており、その成長を楽しむことが出来る。利用者は職員と一緒に、あたり前のように自分の仕事を行っている。動くことが困難な利用者には、気持ちや和むように、ベツからの視線の先に季節の飾りやお気に入りの写真を貼る等、職員の心遣いと家族のような温かさが感じられる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念の意識づけを心掛け毎朝と月二回の会議の中でも唱和している。またグループ理念は事務室、玄関、各フロアに掲示しています。	理念「みんな、笑顔でいつもの暮らし」の基、「すいません・はい・おかげさまで・わたしがします・ありがとう」の言葉を日常の五心として、よりわかりやすく身近な言葉に置き換えて掲示し、日々の介護に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	午後になると、施設前のベンチに地域の方々が集まり、その際利用者様やスタッフも加わって談話している。地元の祭典や清掃・行事には利用者様と参加している。地域のボランティアが増え、地域の小中学校はもちろん地域の保育園とも交流があります。	回覧板で事業所の紹介をしたり、利用者は地域のカラオケ大会や行事に参加している。また、特別支援学校の生徒の実習の受け入れや小中一貫校の生徒による和太鼓演奏・保育園との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の地域自治会長さんや民生委員、老人会の方々と交流を継続しています。行事でボランティアを招いたときは地域の方も招待し一緒に楽しんでいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しホームでの出来事や報告など口頭だけでなく、様子がわかる様にDVDの映像で伝えるとともに、ご家族様からのご要望、意見をその後の運営に生かす様に努めている。	利用者や家族・民生委員・地域包括支援センター等が参加し、事業所の現状報告や意見等が交わされている。運営推進会議で出された意見により、民生委員が保育園に声を掛けて事業所との交流が始まっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは必要に応じて密接に連絡を取りながら運営している。また、月に1回介護相談員の方が来訪され、来訪時は楽しそうに会話されている。サンキューレターの配布を2週間・2ヶ月・6ヶ月行っている。	特別支援学校の生徒の実習や小中一貫校の生徒・保育園児との交流等、事業所の活動や状況報告を定期的に行っている。民生委員を介して市と連絡をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや研修会を通じてスタッフ全員が身体拘束をしない事を理解し徹底している。日中フロアの窓はすぐに開けられるようにしています。身体拘束0宣言を申請している。	身体拘束ゼロ宣言をしており、業務時間外で空いている時間を利用して勉強会等を行っている。階段に柵を設置しているが、利用者の状態が落ち着いており転落の危険性がないため、現在は解放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	悪い言葉遣いや利用者様の行動制限も虐待であることを会議で話し合ったり、事業所内研修や社内研修で理解を深め業務に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度について理解をふかめるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書面をゆっくりと読み合わせ、説明をしている。随時ご家族様からの問い合わせにも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」を設置し、気軽に活用していただくように面会時には話している。また、来訪された時は出来るだけ多く、話をさせて頂いている。	利用者個人の写真が載った便りを家族に送ったり、運営推進会議でDVDやスライドの上映等をして利用者の状況を報告している。意見箱から意見を聞けることはほとんどないが、訪問時には話しをして家族の声を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や勉強会などで職員の意見や提案を反映する機会を設けている。その内容によっては社内の代表者会議に提案している。	法人グループでキャリアパス制度を導入している。個人面談は行っていないが、フロア会議や全体会議で意見を出し合っている。「無駄をなくそう」等を踏まえ、具体的な今年目標を決めて日々の介護に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が行った職員の勤務状況の評価について代表者が管理者と面談をして公平に判定するようにし、向上心を持って働けるように職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回の事業所ミーティングや定期的な内部研修を行っている。外部研修を受講する意欲的な職員もいる。フロアごとの勉強会も継続し、実技指導にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや他の事業所との交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴を把握し、利用者本位のケアができる様に個別での関わりを増やし、ご本人様の思いを傾聴し、理解を深めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から性格、好みや生活ぶりについての情報を聞き、家庭での生活との継続性を重視して受入を行っている。入居されてからの様子をこまめに報告・相談し、ご家族様宛てのおたよりに様子を記入し、日々の写真を同封している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を急がれた場合、空室がない時は近隣施設またはその他のサービスを紹介しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯、掃除、調理等の家事を一緒に行っている。その他一人一人にあった役割を持っていただけようとしている。また庭の手入れを職員と一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的に行事に参加していただけるように心がけている。また、年賀状やお手紙、そしてお誕生日の計画などもご家族様と一緒にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時にご自宅に立ち寄ったり、馴染みの場所へ立ち寄ったり、友人の来訪時に昔の話に耳を傾けるように心がけている。	玄関の外にイスが置かれ、地域の老人会の人たちが気兼ねなく休憩に使用している。利用者が一緒にその会話に参加することもあり、憩いの場となっている。日常の散歩でも顔なじみが出来るように心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者仲に合わせた席の配置や、散歩等へのお誘いを少人数グループで編成をしている。また、合同レクや食事会を行い2階との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や逝去された方、また他施設に転居された方に対してホームでの情報を提供し、その後いつでも相談に応じる体制をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意思に沿えるように、買い物、散歩、運動、レクリエーション等を実施している。年間方針目標で課題にあげて、毎月ミーティングで検討している。個別で関わる事はご本人様の希望や思いを尊重している。	アセスメント表や家族からの情報、本人の表情や仕草等から意向の把握に努めている。買い物の時に食べたい物を聞いたり、日常の会話の中からさりげなく本人の要望を汲み取り、希望に添えるように心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の他に、居宅ケアマネからの情報提供や、ご本人様からも生活歴を把握する様に努め、スタッフに周知している。また、自宅で以前使っていた食器や衣類、家具など馴染みのものを持ってきていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日同時間のバイタルチェックを行い、それぞれの利用者のケアプランに沿ってケアを行っている。体調の変化はすぐに記録に残し、共有している。また、月1回のフロアミーティングで一人一人のカンファレンスを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、モニタリングでアイデアを出し合い、現状に即した介護計画になる様にその都度サービス担当者会議を行っている。	ケアチェック表より課題を分析し、モニタリングやカンファレンスを行い介護計画を作成している。急変があった場合はその都度見直しをして家族と話し合い、現状に即した介護計画を作成して。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録する事の大切さをスタッフに認識させている。また、1日2回の申し送りの際には、記録をよく確認する事を徹底している。介護計画をファイリングし職員全員が把握している。それに伴った介護計画に沿った記録を書いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活に必要な福祉用具に関しては施設で用意しています。個人で必要な杖や歩行用の靴などはご家族様と相談し系列の関連業者を委託している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練の実施、行事へのボランティアの参加や、近隣商店での買い物等を通じて交流を図っている。また、自治会との交流や祭典への参加をしている。運営推進会議には必ず自治会長又は民生委員の方に出席して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診により医療連携を図っている。専門外医療については、関係医療機関を紹介して頂いている。	法人の看護師の訪問や協力医の往診が月2回ある。急変時には24時間の対応が可能となっており、医療連携がとれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内の看護師、協力医療機関の看護師と連携している。看護師から得た情報は常に現場に申し送り共有している。緊急時には24時間電話対応が可能な体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関からは連携室を通じて利用者様の現状についての情報を得ている。また、ご家族との連絡もその都度としている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の時に生前意向確認書を頂いている。半年ないし1年に1度見直しをさせて頂いている。ご本人様、ご家族様に終末期についての考えを伺いご希望に添えるよう医療との連携を図り体制を整えています。	重度化した場合の対応については、契約時に事業所で出来ることを説明して意向の確認をとっている。看取りの経験があり、家族や協力医と話し合いを行って連携を取り、本人や家族の希望に沿った終末期を迎えられるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で応急手当の方法や緊急時の対応の研修を学び、通報の判断の周知徹底をしている。また、職員の中に応急手当普及員の資格を持った職員がいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・火災を想定した防災訓練を行っている。2ヶ月に1回災害用伝言ダイヤルとツイッターを用いた連絡訓練を行い、安否コールシステムを全職員に登録させ、緊急時安否の様子や災害情報を共有できるようにしている。	地域の防災訓練に参加したり、夜間想定避難訓練やツイッター・安否コールを使っての訓練を行っている。いざという時に近隣住民の協力が得られるように、普段から交流を深めている。7日分の水や食糧の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪問のノック、羞恥心の尊重、一人一人の空間づくり、視線にあった掛け声等を行っている。	個人写真の掲載については同意を取り、目の悪い利用者の手紙を読んで聞かせる時には、本人の同意を取った上で行っている。プライバシーや認知症については、職員に共通の認識はあるがマニュアルはない。	職員の認識が共有できるプライバシーに関するマニュアルを作成することを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で思いをさりげなく伺い、個別で関わることにより実現を図っている。なるべく、配茶や食事のメニューなどを利用者様に選択していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	臥床起床時間を決めず個々の生活リズムを尊重している。その時の体調に合わせ、ご本人様の意見や思いを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室の利用をしている。季節の衣類の購入希望の時はご家族様の許可を頂き職員と一緒に買いに行き、選んで頂いている。希望に応じて、気分転換にネイルなど楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立にできるだけ利用者様の希望を反映するようにしている。買い物、調理、片付け等一緒に行っている。要望の中で金山寺味噌や梅干、漬物などの馴染みの食べ物も付け合せとして提供している。季節感を味わえるメニューや、女性が多い事もあり、目でも楽しめる華やかなお膳を心がけている。	味や口当たりだけでなく、見た目でも食欲がわく献立となっている。利用者手作りの漬物がおかずに加わったり、もやしのひげ取りや下ごしらえ等、食事だけでなく準備から片付けまで職員と一緒に楽しんで行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮するとともに、キザミ、トロミ、食器類にも気を配り、カロリーコントロールが必要な方には盛り付けの工夫をしたり、寒天を用いたりしている。また、昼食前には必ず口腔体操を行っている。季節にあった飲み物を揃え、水分補給としてゼリーやシャーベットを手作りしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアの声掛けと見守り又は介助をさせていただく。月に2~3回歯科往診があり、必要に応じて治療だけでなくスケーリングなどを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの利用者様の排泄パターンを把握し、時間でトイレの声掛けをして失敗を軽減している。「できるだけトイレで排泄」を目標としている。	排泄チェック表を使用し、一人ひとりの仕草や様子を見て声掛けをしている。尿意の自覚がない利用者にはタイミングを見て声掛けをし、トイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫、乳製品、水分の摂取や適度な運動を心がけている。また、必要に応じて医師に相談し下剤でコントロールすることもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の湯温を把握して、できるだけ利用者様の希望に沿って入浴して頂いている。冬季にはみかんの皮、柚子等を乾燥させて風呂に入れている。	週2回から3回の入浴を行っている。入浴を拒む利用者でも入浴が嫌いでない場合があるため、その思いを汲み取り一人ひとりに合った方法で声掛け等をして入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動を心がけ、一人一人の習慣や体調に合わせて支援している。温かい飲食物の提供や寝具の調整や空調管理に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬一覧表を作り、ダブルチェックをしている。処方箋の内容や用法を職員全員が周知し、その観察をしている。また、血圧の薬や下剤の薬は別包にし、その時の体調に合わせて服薬できるようにしている。服薬ゼリーを使用したり、個々に合わせ粉碎加工など薬剤師と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	盆暮れ御彼岸には、お墓掃除ができるよう支援をしている。ぬかみその手入れや食事の片付けなどをそれぞれ担当している利用者様がいる。また、ボランティアさんの協力を得たりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩やドライブに出かけています。季節のイベントの見学にも行っています。また、ご家族様との外食や外泊もされている。	管理者は「ベランダに出るのは外出ではない」という考えを持っており、天気の良い日には靴に履き替え散歩に出掛けている。近くの海岸や池のある公園等、職員と一緒に本人の希望の場所へドライブに出掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーやお店に職員が付き添い、買い物を楽しんでいただいている。また、欲しい物がある時はその都度ご要望に応じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の便りや電話等にはできるだけ対応している。ご利用者様に手紙や年賀状を自筆で書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁への掲示物を季節に合わせて随時変えている。エアコンや加湿器などの空調設備を利用し居心地のよい空間づくりを心掛けている。利用者様の体格に合った家具選びや、足置きを設置している。また、季節の生花などを飾ったり、思い出の写真を掲示している。	1階の居間は、廊下との仕切りを撤去したことで食事だけでなく多目的に使用が可能になり、多くの方がイベントに参加できるようになっている。玄関の雛飾りの他にも庭に咲いていた花を摘んで花瓶に飾っており、今の季節をより身近に感じることができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームの壁を取り壊し、広い空間でくつろいで頂いている。天気の良い日にはデッキやベンチで外気浴をしながらお茶の時間を楽しんでいる。それぞれの趣味や嗜好にあったコミュニケーションが図れる関係を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのものを出来るだけ多く持ち込んでいただき、居心地のよい生活を送っていただけるようにしている。部屋には家族の写真なども自由に飾っていただいている。季節の行事や誕生日に応じて飾り付けをしている。	ミシンが置かれ手作りの人形を飾っていたり、ベッドから起きた時の視線の先に好きな写真や季節の物を飾っている等、今までの生活を継続して居心地良く過ごせる工夫がされた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部にはなるべく障害物を置かないようにしている。また、スタッフと一緒に料理や食器洗いはもちろん、準備、片付け、収納までしている。自立入浴支援として滑り止めや手すりの設置をしている。また、必要に応じてベッド柵にカバーを付けたリ、ベッド下にマットを設置している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100077		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい静岡	ユニット名	2F
所在地	静岡県沼津市獅子浜111-1		
自己評価作成日	平成28年2月25日	評価結果市町村受理日	平成28年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2291100077-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2291100077-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成28年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の食事は献立の希望を伺ったり、一品一品手作りし、家庭の味を大切にしています。又それぞれの方に合わせた食形態で提供しています。天気の良い日は、散歩やドライブ等外出する機会を積極的に作っています。日常生活の中では、歩行練習をかね、一人一人スタッフが関わりながら一緒にお掃除を行っています。共有スペースでは、歌を唄ったり、トランプ、かるたなど、会話を楽しみながらのレクを取り入れ穏やかに生活できるような環境づくりを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念の意識づけを心掛け毎朝と月二回の会議の中でも唱和している。またグループ理念は事務室、玄関、各フロアに掲示しています。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	午後になると、施設前のベンチに地域の方々が集まり、その際利用者様やスタッフも加わって談話している。地元の祭典や清掃・行事には利用者様と参加している。地域のボランティアが増え、地域の小中学校はもちろん地域の保育園とも交流があります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の地域自治会長さんや民生委員、老人会の方々と交流を継続しています。行事でボランティアを招いたときは地域の方も招待し一緒に楽しんでいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しホームでの出来事や報告など口頭だけでなく、様子がわかる様にDVDの映像で伝えるとともに、ご家族様からのご要望、意見をその後の運営に生かす様に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは必要に応じて密接に連絡を取りながら運営している。また、月に1回介護相談員の方が来訪され、来訪時は楽しそうに会話されている。サンキューレターの配布を2週間・2ヶ月・6ヶ月行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや研修会を通じてスタッフ全員が身体拘束をしない事を理解し徹底している。日中フロアの窓はすぐには開けられるようにしています。身体拘束0宣言を申請している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	悪い言葉遣いや利用者様の行動制限も虐待であることを会議で話し合ったり、事業所内研修や社内研修で理解を深め業務に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度について理解をふかめるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書面をゆっくりと読み合わせ、説明をしている。随時ご家族様からの問い合わせにも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」を設置し、気軽に活用していただくように面会時には話している。また、来訪された時は出来るだけ多く、話をさせて頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や勉強会などで職員の意見や提案を反映する機会を設けている。その内容によっては社内の代表者会議に提案している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が行った職員の勤務状況の評価について代表者が管理者と面談をして公平に判定するようにし、向上心を持って働けるように職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回の事業所ミーティングや定期的な内部研修を行っている。外部研修を受講する意欲的な職員もいる。フロアごとの勉強会も継続し、実技指導にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや他の事業所との交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴を把握し、ホームでの生活に馴染むまで居宅のケアマネに情報を頂き、職員が個別に対応し信頼関係を築きながら、利用者本位のケアを心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から性格、好みや生活ぶりについての情報を聞き、家庭での生活との継続性を重視して受け入れを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を急がれて空き室がない場合は、グループ内の施設や近隣の施設、またはその他のサービスを紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、御本人に出来る事を探し、職員と一緒にいる。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的に行事に参加して頂けるように声掛けを工夫する様心掛けている。また、「おたより」で利用者様の生活の様子をお知らせし、御家族との一体感が失われない様に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時には馴染みの場所へ立ち寄り、友人や知人の訪問時に昔話に耳を傾けるように心掛けています。又個別の会話の中で回想を含めてのお話をしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が一体となるレクリエーションを探し提供しています。また、利用者様同士の関係に配慮した席の配置をしています。お茶の時間やレクの時間を利用して1Fと2Fの交流も積極的に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院やご逝去された方、また他施設に転居された方に対して、施設でも情報を提供し、その後いつでも相談に応じる体制をとっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向に添えるように、買い物、散歩などの外出や運動レクリエーション等を実施しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の他に、居宅ケアマネからの情報提供や、ご家族様からも生活歴やサービス利用歴を把握する様に努め、またご本人の会話の中から、情報収集しスタッフに周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日同時間のバイタルチェックを行い、それぞれの利用者様のケアプランに沿ってケアを行っています。体調の変化等は記録に必ず残しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス・モニタリングでスタッフの意見を出し合い現状に即したその人らしい介護計画としています。センターシートも必要に応じて活用しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録する事の大切さをスタッフに認識させています。また、1日2回の申し送りの際には、記録をよく確認する事を徹底させ記録の書き方の研修を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活に必要な福祉用具に関しては、施設で用意しています。個人で必要な杖や歩行用の靴などは、ご家族と相談し系列の関連業者を委託しています。又ご希望によりマッサージの方にも来て頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練の実施、行事へのボランティアの参加や、近隣商店での買い物等を通じて交流を図っている。また、自治会との交流や祭典への参加をしている。運営推進会議には必ず自治会長又は民生委員の方に出席して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診により医療連携機関の医師、看護師と連携し、医師、看護師から得た情報は常に現場に申し送りし、共有しています。緊急時には24時間電話対応が可能な体制を整えています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内の看護師、協力医療機関の看護師と連携している。看護師から得た情報は常に現場に申し送りし共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関からは面会や電話などで毎月利用者様の現状についての情報を得ている。また、ご家族様との連絡もその都度、取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様に終末期についての考えを伺いご希望に添えるよう医療との連携を図り、体制を整えています。入居時に意向確認書を提出して頂き、必要に応じて半年から一年に一度更新をしていただいています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で応急手当の方法や緊急事の対応の研修を学び通報の判断の周知徹底をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・火災を想定した防災訓練を行っている。2か月に1回災害用伝言ダイヤル訓練とツイッター訓練、新しいシステムの安否コールの訓練を実施し職員全員参加にて行っている。地域の防災訓練には職員が必ず1名参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪問時のノック、プライバシーの尊重、目線を合わせ一人一人に合わせた声掛け等を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別の時間を作り関わりを持ち、コミュニケーションの中でご利用者の気持ちを引き出すように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせてコミュニケーションを図り、レクリエーションへの参加を強要しない等、ご利用者の希望を尊重している。また、ご希望により個別での外出を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室の利用をしている。スタッフとモーニングケアの時に、その日の衣類と一緒に選び毎朝温かいタオルを用意して、男性はヒゲソリ、女性は整髪等毎日の整容に心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立にご利用者のご希望を反映するようにしています。メニューが偏らないように工夫して苦手な献立の時は代用メニューを提供している。嚥下の困難な方には食事形態を変えて提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス考慮すると共に、キザミ、トロミ、食器類にも気を配っています。年間を通して水分チェック表をつくり、お茶の時間はそれぞれの方のご希望を伺い提供するようにして水分補給にも心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔体操を行なっている。また、月2回協力歯科医院の往診があり、歯科衛生士から口腔ケアの指導を受けて、3ヶ月に1度スケーリングも行っている。食後は必ず口腔ケアを行い、一人一人関わっています。毎晩義歯洗浄剤にて清潔の保持を心掛けています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれのご利用者様の排泄パターンを把握し、声掛け誘導に努めています。「最後までできるだけトイレでの排便」を目標としている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、乳製品、水分の摂取や適度な運動を心がけている。また、必要に応じて医師に相談をし、下剤でコントロールすることもあり、水分摂取の難しい方は手作りゼリーなどを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴回数や時間等については、できるだけご利用者様の希望に添っています。季節により、干したみかんの皮やユズなどを入れて楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動を心がけ一人ひとりの習慣や体調に合わせて支援している。温かい飲み物の提供や空調管理に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬一覧表を作り、ダブルチェックをしている。処方箋の内容や用法を職員全員が周知をし、その観察を行っている。服薬困難な方に対して服薬ゼリーを作り個別対応をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人出来る事を探し、一緒に掃除をしたり、台所仕事をして頂いています。習字レクへの参加をして気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけたり、庭で手作りのお弁当を食べたりしています。また月の担当を決めて、ご家族様にも参加しやすい計画も心がけている。ドライブを兼ねて、スタッフと一緒に足湯などにも出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が付き添い一緒に買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別にご家族様からのおたよりを呼んで差し上げて、近況についてお話をし一緒に喜びを分かち合っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の換気や空調の管理、照明の明るさに気を配り、季節ごとの四季を感じられるような雰囲気作りを心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームにソファを置き、自由にくつろいで頂き、団らんの場所として頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真や季節の掲示物、馴染みの物をおいて頂いたり、居心地のよい生活を送って頂けるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部にはなるべく障害物を置かないように心掛けています。また、洗濯物を干したり、取り込み、たたみ、片づけ、収納などを職員と一緒にして頂いている。		